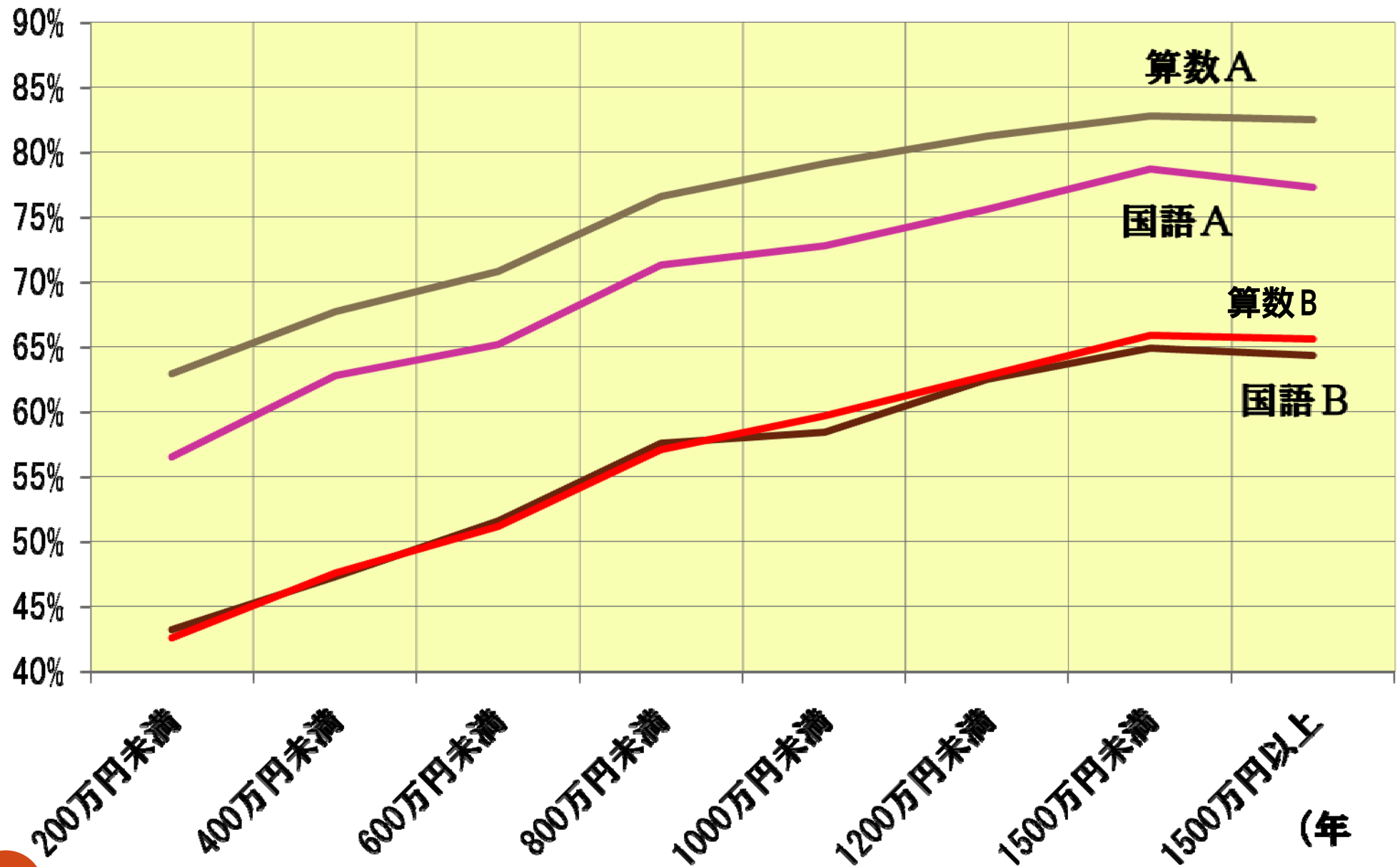


世帯所得と児童の学力の関係

(正答率)

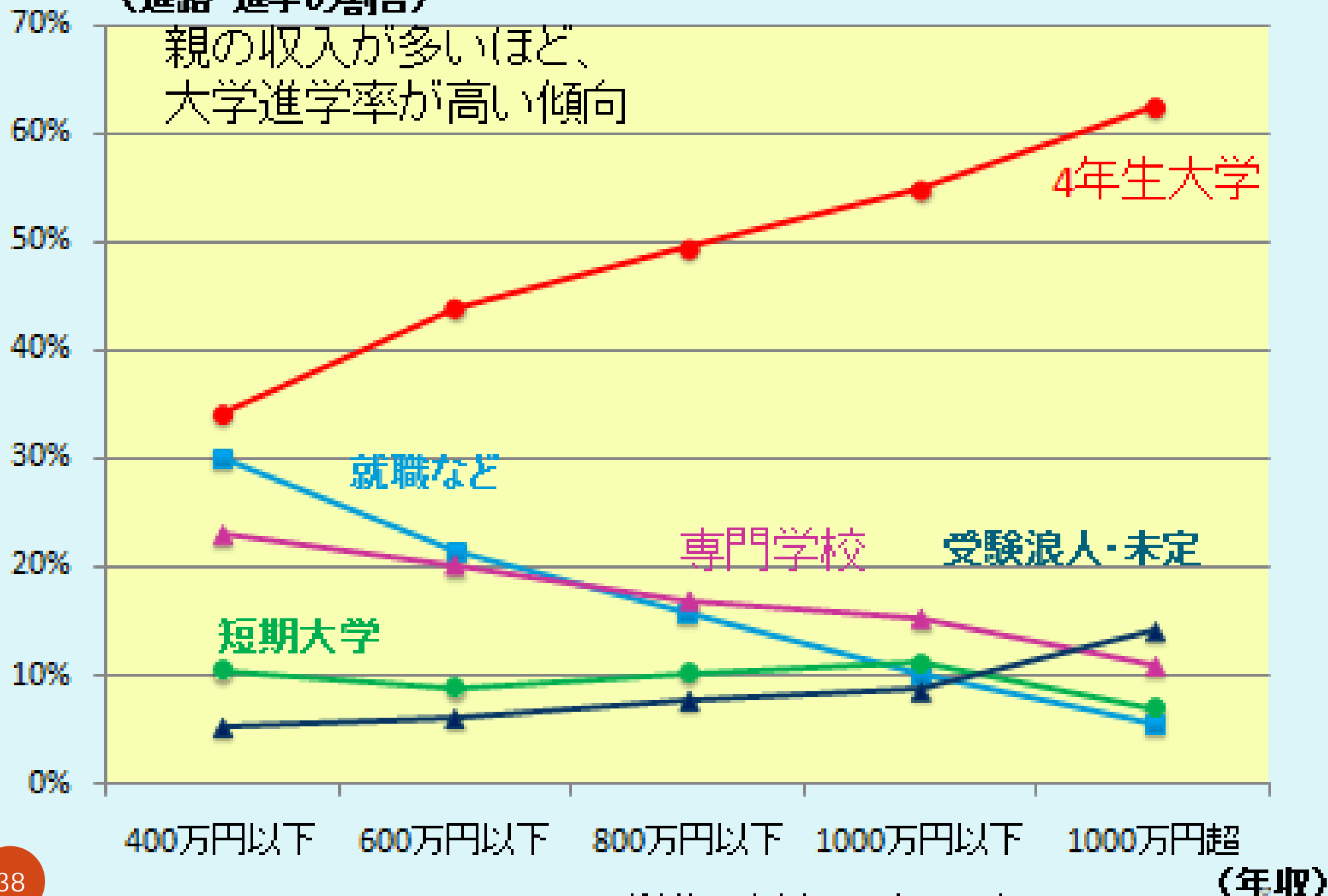
(2008春:文科省調査)



親の収入と高校卒業後の進路格差

(進路・進学割合)

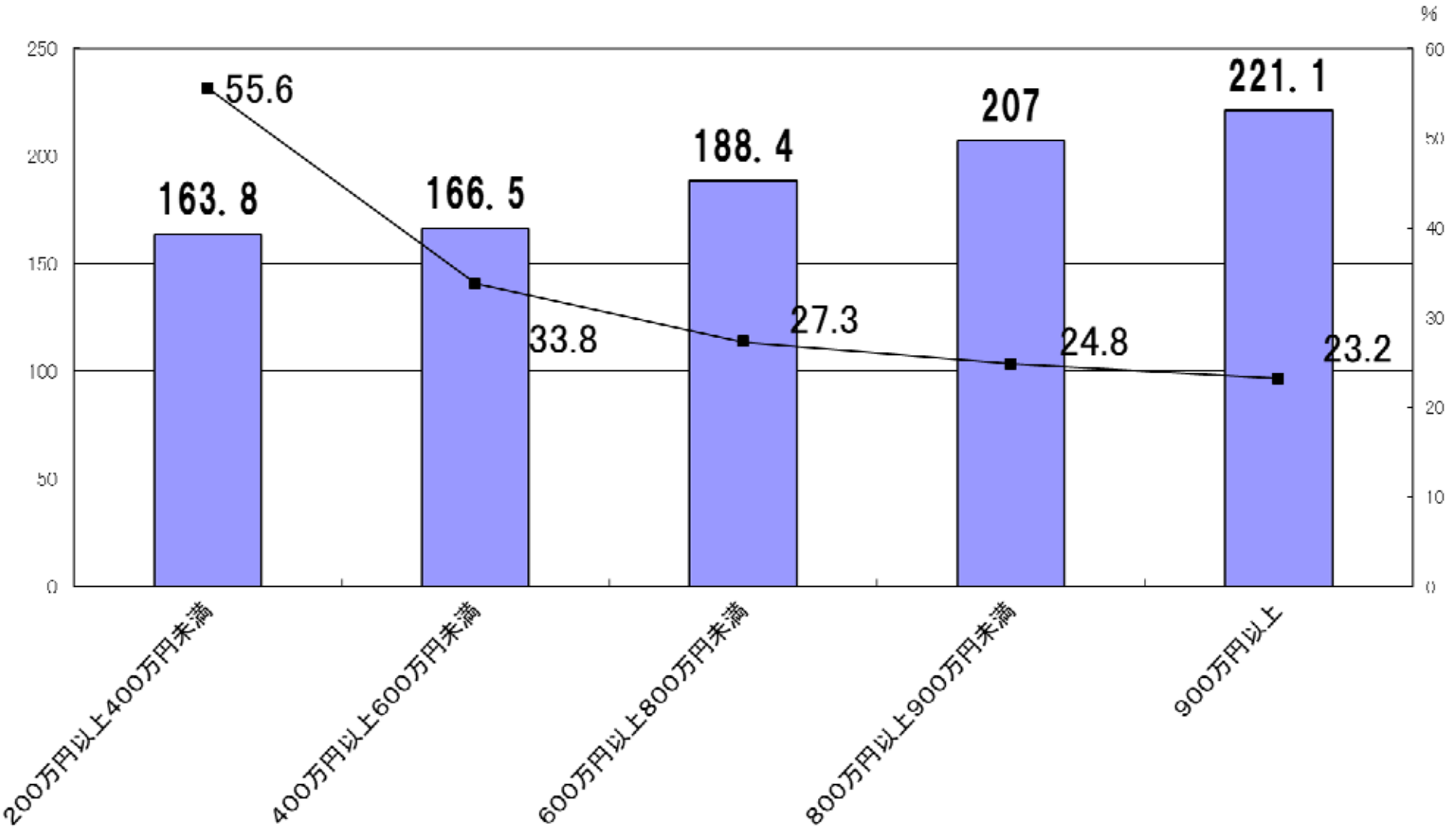
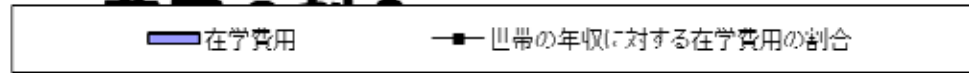
親の収入が多いほど、
大学進学率が高い傾向



東京大学「高校生への進路追跡調査第1次報告書」(2007.9)より

年収階級別に見た世帯の在学費用と世帯に対する在学

万円



出所：教育費負担の実態調査結果（勤務者世帯） 平成20年10月15日日本政策金融公庫国民生活事業本部個人融資部

埼玉県では

	2009年度 生活保護世帯 中学卒業者	教育基本調査 (全県)	教育基本調査 (全国)
進学	86.9%	98.2%	97.9%
全日制高校	67.8%	93.5%	92.1%
定時制高校	10.5%	2.2%	2.5%

貧困の現代的な現れ方

社会的排除

(単なる低所得でなく)、長期の失業、低学歴・低技能、疾病、家庭崩壊、社会保障の権利の喪失、貧しい住宅事情、犯罪、社会的孤立など諸問題の結合によって、社会全体から排除されている。
= 過去の積み重ね

社会的排除・・・経済的な貧しさ + つながり(関係)の貧しさ = 社会のすみっこに追い
やられていく

マージナル化

自立支援とはなにか

《現代の貧困にどう立ち向かうか》

経済的保障にとどまらず、人間的な生の回復、社会的な排除からの回復をめざすこと。

(自律・自立・・・人間の主体性の確立、社会的な生の確立)

自立の基礎  教育

日常生活自立・・・身体精神の健康の回復・維持
し、自分で自分の健康生活管理

就労自立・・・就労による経済的自立

社会生活自立・・・社会的つながりの回復・維持

(生活保護制度の在り方に関する専門委員会報告)

学校制度に「支援」と「学び直し」機能を
学歴は就労の安定度に大きな影響

貧困の連鎖を断つために

不登校や中退した生徒たちを学校と地域の
ネットワークにつなぐ支援と学び直しを

○不登校の子どもたち

中学にも留年制度（現行法3年）を

○中退を防ぐ支援のシステムを

○中退しても再び受け入れる高校を

○中退者の就労訓練施設を

親から子どもへの貧困の連鎖を断つ

貧困世帯・一人親世帯の子育て支援

貧困世帯・一人親世帯の子どもの学力
を育て、高校進学を支援する。

高校卒業を支援する。(中退を防ぐ)

高校卒業から就業(社会的自立)まで
の支援(職業訓練)

地域の「子育て相談施設」を。

(地域のソーシャルワーク)

「福祉行政」と「学校」と「地域社会」を
つなぐネットワークを

親から子どもへの貧困の連鎖を絶ち、若者の社会的自立を支えるために

